

キャンパスで学ぶ 翻訳通訳

大学における
翻訳通訳専門教育の現在



第4回

札幌大学英語専攻で学ぶ通訳翻訳

～「通訳演習」・「翻訳演習」・通訳翻訳エキスパートコース～

佐藤 美希

札幌大学地域共創学群外国語学系・教授



札幌大学の英語専攻は学部課程に通訳翻訳エキスパートコースという通訳翻訳のコースを設けており、これは東北以北の大学では唯一です。ただし、学部卒業後すぐに通訳や翻訳の職に就くことを期待しているのではなく、通訳翻訳訓練を生かした英語トレーニングを通じて、高い英語力と異文化に対する理解力と対峙力を身につけてもらうことが目的です。

当専攻では通常、ゼミナール科目は2年生から、専門ゼミナールには3・4生が所属しますが、通訳翻訳エキスパートコースの学生は入学時から通訳翻訳ゼミに所属し、卒業まで継続します。また、通常の科目としては3・4年生向けの専門科目に「通訳演習Ⅰ・Ⅱ」「通訳研究」「翻訳演習Ⅰ・Ⅱ」という科目群を設けています。これらの科目は、通訳翻訳コースの学生に限らず意欲があれば誰でも受講できます。

「通訳演習」・「通訳研究」・ 通訳翻訳エキスパートコース

本学の英語専攻では、北海道を中心に同時通訳者・翻訳者として第一線で活躍している熊谷ユリヤ教授が教鞭を執っており、「通訳演習Ⅰ・Ⅱ」「通訳研究」という専門科目と、上述の通訳翻訳エキスパートゼミを1年から4年まで一貫して指導しています。

1年次のゼミでは、まず通訳訓練の土台となる英語力の養成と、留学を目指す学生が多数いること

からTOEFL対策が中心になり、通訳訓練法を取り入れながら英語力を確実にするトレーニングが繰り返されます。2年次以降は、通訳訓練による英語トレーニングと並行して実践的な学びにも取り組み始めます。学内では、留学生と日本人学生がともに受講するJapanese Affairsという授業での通訳があります。この授業は英語専攻以外の受講生も多く、また留学生でも日本語がまだ未熟な学生もいるため、通訳翻訳ゼミの学生が授業に参加し、英・日・日・英の通訳を実践します。また、熊谷教授が様々な通訳業務をされていることもあり、学外での通訳翻訳の機会にも恵まれています。これまでの例としては、ゼミの学生たちが2017年冬季アジア札幌大会の外国語ボランティアに参加し、またTOEIC750点以上の資格を有していた複数の学生が公式通訳として採用されました。他にも、本大学の所在地である札幌市豊平区からの依頼で、外国人向けリーフレットの翻訳に従事し、それに掲載された地場食材のレシピを同区が料理レシピサイトのクックパッド英語版に提供する際にも英語翻訳を担当するなど、ゼミや「通訳演習」「通訳研究」で学んだ内容を実際の地域貢献の活動に活かす機会になっています。実際に通訳者・翻訳者として経験豊富な教員から学んでいる利点と成果が示された例でしょう。

ただし、通訳翻訳エキスパートコースには成績基準があり、このゼミナールに所属するには入学時の英語テストによる選抜があります。また、成績基準をクリアしなければゼミを継続することはできません。逆に、成績と意欲が認められれば、年度当初に新たにゼミに参加することもできます。こうした学習環境のもと、通訳翻訳ゼミの学生は切磋琢磨しながら高い英語力の獲得を目指して勉学に励んでいます。



「翻訳演習」

この科目は執筆者が担当しており、「英文和訳」とは違う“翻訳”を学ぶ」をテーマにしています。上述の通訳の学びと比較すると、実践や翻訳技術の習得が主眼ではなく、あくまで翻訳への取り組みを通じた正確な（言語面と異文化理解の両面を含めて）英文理解力の向上、そして理解した英語を“英文和訳”から脱却して適切に伝えようとする意識の涵養が目的です。

授業では、各翻訳課題のポイントを提示して、ワークシートを通じてそれを理解してもらった後、学生が各自で翻訳してきた課題をグループで見せ合い、ディスカッションしながら各自の訳文を修正していきます。その後完成した課題を提出し、教員が添削して返却、クラス全体にもフィードバックを行います。これが基本的な授業の流れで、ユニットごとにこれを繰り返します。ディスカッションがポイントから逸れていたりアイデアに詰まっている時のみ教員からアドバイスを示しますが、彼らの会話を聞いてこちらが気づかされることも多々あります。

学生にとって、自分の訳文を複数の人に読んでもらい、また多様な翻訳例に触れることで得るものは非常に大きいようで、あれこれ悩みながらもいつも熱心なディスカッションが展開されています。学期当初は英文和訳から抜け出せず、適切な理解と表現がなされない訳文が目立ちますが、複数の課題を通して、学期末には明らかに訳文が洗練されていきます。

【参考文献】(通訳翻訳エキスパートコースについての活動報告が詳細に記述されています)
熊谷ユリヤ (2018) 「通訳翻訳教育を通じたグローバル人材育成の試みー札幌大学通訳翻訳エキスパートコースの事例から」『札幌大学総合論叢』第45号、67-78.



熊谷教授による通訳の授業風景

学生の声：

英語専攻

通訳翻訳エキスパートコース4年

平野明日香さん

通訳翻訳の授業では、テキストなどを用いて実践練習のような形でそれぞれにおける重要ルールや、訳すために必要なメソッドを学びました。私にとっては初めて通訳翻訳に触れる機会だったため、初めは定められた文字数や時間で正しく簡潔に訳すことはとても難しく感じました。ですが、何度も繰り返し実践し、フィードバックを行うことで徐々に技術が磨かれていったと思います。また、様々なシチュエーションにおける通訳翻訳の形、実際にプロの訳者が使う技術を学ぶことができるので大変興味深かったです。通訳翻訳で学ぶ英語は、普通の授業で学ぶものよりも一層実用的だと思います。英語圏での活躍を目指す上でかなり役に立つ技術だと感じました。ゼミナールでは実際に区役所からの依頼で訪日外国人向けにパンフレットを翻訳したり等、自分たちの学びを活かす機会があり良い経験になりました。



Writer Profile

佐藤 美希

Sato Miki



札幌大学地域共創学群外国語学系 教授
英国 University of Warwick 大学院で比較文学とトランスレーション・スタディーズを学び (MA in Comparative Literary Theory)、北海道大学で博士号取得 (国際広報メディア)。2010年に札幌大学に着任、英語、英文学、翻訳の授業を担当。主な研究テーマは文学の翻訳受容。

平野 明日香

Hirano Asuka



札幌大学地域共創学群英語専攻4年
入学時から通訳翻訳エキスパートコースに所属。札幌大学の協定校である米国ネブラスカ州立大学カーニイ校に、大学からの奨学生として、1年間留学。